

令和5年度 北陸農政局農業農村整備事業等評価（国営事業）  
に係る技術検討会（第2回）議事要旨  
【事後評価：佐渡地区】

1. 日 時:令和5年6月30日（金）13:28～15:24
2. 場 所:(公財)石川県文教会館 401・402 大会議室
3. 委 員:上澤 聖子 (一社)朝日町観光協会 (Web)  
根岸 睦人 新潟大学 准教授 (Web)  
浜野 剛 (株)北國新聞社 編集局統括デスク長  
松本 恵子 みらい(株) マネージャー (Web)  
森 丈久 石川県立大学 教授  
(五十音順)

■議事概要

第1回技術検討会での評価結果書等の説明で、意見・質問のあった事項に対し、北陸農政局国営事業管理委員会が取りまとめた回答（案）の説明を行い、質疑応答を行った。その後、第三者の意見となる「技術検討会の意見」について、取りまとめを行った。

「技術検討会の意見」は、以下のとおり。

【事後評価 佐渡地区 技術検討会の意見】

本事業で、外山ダム、小倉ダム、幹線用水路及び排水機場の新設等が行われ、農業用水の安定供給や湛水被害の解消が図られている。また、関連事業による圃場の大区画化や汎用化等が行われ、経営規模の拡大や担い手への農地の集積・集約化が進むとともに、高収益作物やスマート農業の導入等が進められ、農業生産性の向上及び農業経営の安定化に寄与している。

さらに、「トキと共生する佐渡の里山」の取組が本事業の実施とともに進展し、佐渡産コシヒカリの認証米制度の導入や農産物のブランド化、環境学習会の開催、食育の取組が行われている。

一方、関連事業の一部が完了しておらず、事業の効果が十分には発現されていない状況にあることから、関係機関が一体となって関連事業を計画的に推進し、さらなる生産コストの削減や高収益作物の生産拡大等、事業の効果を早期に発現させていくことが望まれる。また、地域農業の担い手として、U・Iターン就農者の確保を図るとともに、農地の集積・集約化を進め、ブランド化の取組やスマート農業の導入による経営感覚に優れた経営体の育成・確保を一層推進していくことが望まれる。